

要注意外来生物リスト 無脊椎動物(陸生節足動物を除く)(案)

資料2 - 2

被害に係る一定の知見はあり、引き続き指定の適否について検討する外来生物

和名	学名	*	生息域	導入経路 導入手段	文献等で指摘されている 影響の内容	摘要
アメリカザリガニ	<i>Procambarus clarkii</i>	要	淡水産	意図的 食用・増養殖	生態系(競合・駆逐、捕食、 環境攪乱など)	既に広範囲に分布しており、特に希少な水草や水生昆虫への影響が懸念される。大量に使用されていると思われるが、安易な利用は行わないなどの普及啓発が重要。
ムササビガイ	<i>Mytilus galloprovincialis</i>	要	海産	非意図的 ハラスト水等	生態系(競合・駆逐、遺伝的 攪乱)、農林水産業	既に広範囲に分布しており、内湾生態系を一変させてきた。養殖貝類・取水施設等への付着により多大の被害を与えている。在来種との交雑が発見されており、遺伝子攪乱が懸念される。防除は困難であるが、大量発生時の汚染被害等に注意が必要。一部で養殖が行われている。
ミドリガイ	<i>Perna viridis</i>	要	海産	非意図的 ハラスト水等	生態系(競合・駆逐、遺伝的 攪乱、環境攪乱)、農林水産業	養殖貝類・取水施設等への付着により多大の被害を与えている。既に広範囲に分布しており、防除は困難である。大量発生時の汚染被害等に注意が必要。
カサネカザシ	<i>Hydroides elegans</i>	要	海産	非意図的 ハラスト水等	生態系(競合・駆逐、環境攪 乱)、農林水産業	養殖カキの殻表面に付着し養殖業に多大な被害を与えたほか、取水施設への汚損被害を引き起こしている。被害に係わる知見は多いが、既に広範囲に分布しており、駆除、防除が難しい。大量発生時には汚染被害等に注意が必要。

被害に係る知見が不足しており、引き続き情報の収集に努める外来生物

和名	学名	*	生息域	導入経路 導入手段	文献等で指摘されている 影響の内容	摘要
クテジマフツツホ	<i>Balanus amphitrite</i>	要	海産	非意図的 ハラスト水等	生態系(競合・駆逐)	在来種と競合し、減少させた可能性がある。国内での被害の知見は明確でないが、ハラスト水等の適切な管理に注意が必要。
チチュウカイミドリガニ	<i>Carcinus aestuarii</i>	要	海産	非意図的 ハラスト水等	生態系(捕食)	在来種との競合の可能性はある。国内での被害の知見は明確でないが、既に分布を拡大中の外来生物であり、ハラスト水等の管理などにて分布拡大を防ぐことが必要。
ヨーロッパミドリガニ	<i>Carcinus maenas</i>	要	海産	非意図的 ハラスト水等	生態系(捕食)、 農林水産業	国内では未定着であるが、諸外国では水産業への被害や在来生物への捕食など多大な被害を与えている。
カラムシロ	<i>Nassarius sinarus</i>	要	海産	非意図的 水産物への混入	生態系(競合)、農林水産業	有明海においてハゼ漁などに多大な被害を与えている。水産資源(アゲマキなど)の輸入の際に混入するので、水産資源の輸入の際には注意が必要。
コウロエンカビハリガイ	<i>Xenostrobus securis</i>	要	海産	非意図的 ハラスト水等	生態系(競合)、農林水産業	既に広範囲に分布しており、防除は困難であるが、大量発生時の汚損被害等に注意が必要。
イガダマシ	<i>Mytilopsis sallei</i>	要	海産	非意図的 ハラスト水等	生態系(競合・駆逐、環境攪 乱)	インドでは船舶・取水施設への汚損被害を与えている。日本でも分布を広げており、在来付着生物との競合が懸念されている。国内での被害の知見は明確でないが、今後はハラスト水等の適切な管理に注意が必要。
タイワンジミ種群	<i>Corbicula fluminea</i>	要	淡水産	意図的 食用・蓄養	生態系 (競合・駆逐・遺伝的攪乱)	アメリカの河川で大繁殖し、取水施設の通水障害や在来二枚貝の生息を圧迫する等の被害を引き起こしている。国内での被害の知見は明確でないが、分布を拡大中の外来生物であり、分布拡大を防ぐための普及啓発が必要。
シナハマグリ	<i>Meretrix petechialis</i>	要	海産	非意図的 食用・蓄養	生態系(遺伝的攪乱)	国内での被害の知見は明確でないが、蓄養・放流時には拡散防止の注意が必要。
カニヤドリカサシ	<i>Ficopomatus enigmaticus</i>	要	海産	非意図的 ハラスト水等	生態系(競合・駆逐、環境攪 乱)、農林水産業	ヨーロッパでは取水障害などの被害を与えている。国内での被害の知見は明確でないが、ハラスト水等の適切な注意と管理が必要。
ムネオプシスレイディ (ツノカラゲの一種)	<i>Mnemiopsis leidyi</i>		海産	非意図的 ハラスト水等	生態系(捕食・競合)	黒海では、捕食によりプランクトンの群集構造に影響を及ぼし、プランクトン食の魚類の減少を引き起こした。ハラスト水の適切な管理に注意が必要。

選定の対象とならないが、注意喚起が必要な外来生物

和名	学名	*	生息域	導入経路 導入手段	文献等で指摘されている 影響の内容	摘要
アフリカマイマイ	<i>Mytilopsis sallei</i>		陸産	意図的 食用	生態系(競合・駆逐、環境攪乱)、農林水産業	食害により、在来植物や農作物に被害を与えるおそれがあり、南西諸島や小笠原に定着している。植物防疫法により輸入や分布域からの持ち出しが規制されており、これらの遵守が必要である。
スクミンゴガイ	<i>Corbicula fluminea</i>		淡水産	意図的 食用	生態系(競合・駆逐、環境攪乱)、農林水産業	食害により、在来の水草や農作物に被害を与えるおそれがあり、関東以南に広く蔓延している。植物防疫法により輸入が規制されており、これらの遵守が必要であるとともに、国内でも未定着の地域に放すことのないよう注意すべきである。

(要注外来生物リストの対象外とするもの)

和名	学名	*	生息域	導入経路 導入手段	文献等で指摘されている 影響の内容	摘要
セルコパリス・ペンゴイ (オオミジンコ科の一種)	<i>Cercopagis pengoi</i>		汽水～ 淡水産	非意図的 ハラスト水等	生態系(捕食・競合)	海外で稚魚や他の水生生物の餌となる小型の動物プランクトンを捕食し、在来生物の成長阻害や減少を引き起こしていると考えられている。

*要: 要注リスト掲載種、日本生態学会リスト100 IUCNリスト100